

トンネルハウスナシにおける台風時の落果軽減効果

農業研究センター 球磨農業研究所

担当者：藤丸 治

研究のねらい

ナシ栽培において、台風による落果被害は大きく、特にここ数年は毎年のように落果被害がでているのが現状である。

トンネルハウス栽培は、熟期促進をねらいとしたものであるが、露地と比較して果実の肥大が早く横径で10mm程度大きいため、台風襲来時の落果被害の程度を確認し、その被害程度を露地と比較した。

研究の成果

- 1 平成8年台風6号時の調査で、落果率は露地の8.5~22.0%に対して、トンネルハウスでは0~5.1%であった。
- 2 平成8年12号時の調査で、落果率は露地の20.2~34.3%に対してトンネルハウスでは2.0~6.0%であった。
- 3 平成9年台風19号時の調査で、落果率は露地の8.1%に対してトンネルハウスでは1.9%であった。
- 4 以上の結果、トンネルハウスでは、棚線に固定した直管パイプおよび棚上の資材等により棚の上下動が少なく、露地に比べて落果被害が少なくなると考えられる。

普及上の留意点

今回の結果は、台風襲来時にらせん杭で棚固定を行った時の結果であるので、より落果被害を少なくするために棚を補強する必要がある。

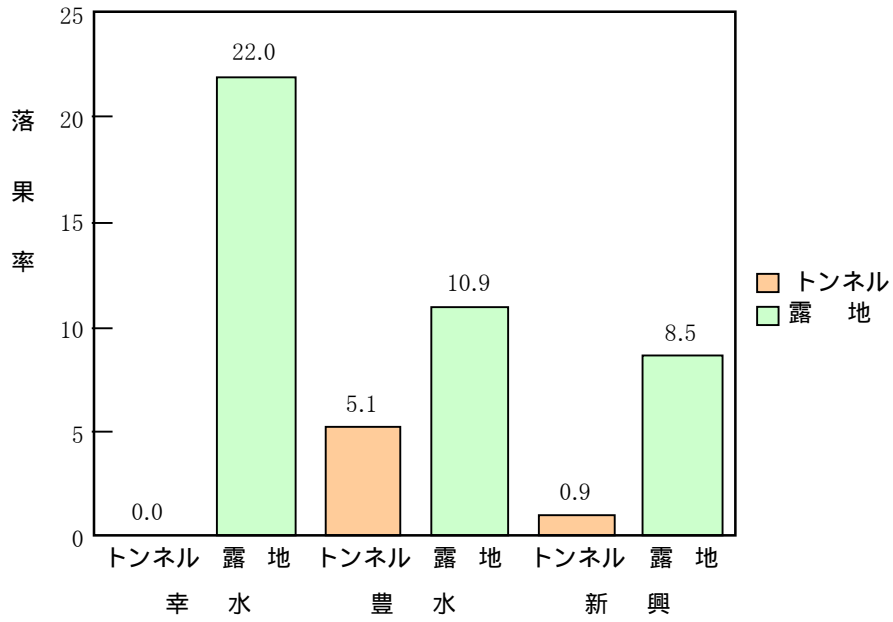


図1 平成8年台風6号襲来時の落果率
(平成8年7月18日 最大瞬間風速 32.1m)

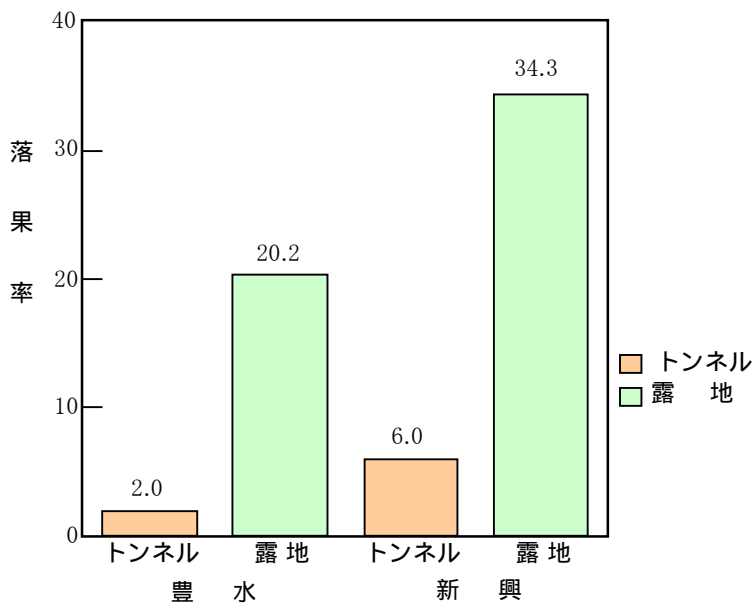


図2 平成8年台風12号襲来時の落果率
(平成8年8月14日 最大瞬間風速 36.5m)

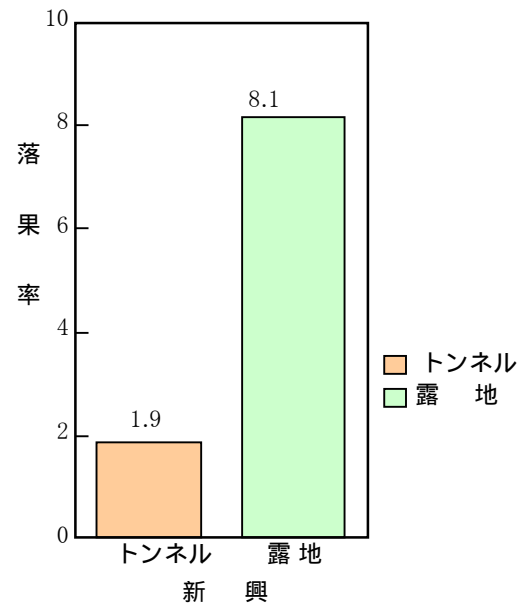


図3 平成9年台風19号襲来時の落果率
(平成9年9月16日 最大瞬間風速 28.4m)